

# 研磨屋稼業はつらいよ♪

精密研磨稼業を展開中♪材料との「格闘」や日々、感じたことを紹介します。

研磨屋店主：カノン (canon)

## 第1回 Prologue 「キミは一体、何者なのだ？」の巻

親のスネをかじっていた学生時代、ものづくり専門職を目指していた理由は分野が芸術や工業など、何であれ完成したモノに向き合う瞬間の達成感を味わい続けて日々、感動することを望んだからです。実際の社会において「職業人」として仕事をするようになると、モノを造り続けるという作業は材料や製品だけではなく「自分自身」と向き合うことであると気付くようになります。しかも、ものづくりは結果が必ずしも満足いくものでは終わらない以上、手探りで歩いてきたプロセス(道のり)の価値を楽しむことも、この職種を続ける上で必要な資質となります。—— ものづくりに携わる全ての同胞たちへ ——

読者の皆さん初めまして。おそらくは国内では唯一の研磨屋ブログである「研磨屋稼業はつらいよ♪」の管理人、カノンと申します。英語表記では”canon”としていますがこれは某大企業の社名ではなくキリスト教徒に示された標準、基準、預言を意味する言葉として、私がインターネットの黎明期(ワープロ通信時代)から使っているハンドルネームであります。私自身もキリスト教徒の端くれなのでこの名前に含まれた意味に対して敬虔な気持ちでいると同時に全ての物事に対して曲線的な目線を保てるように願っています。

この研磨屋ブログのコンセプトは支障の無い範囲で実際の加工について語り、取り組みや新しい材料に対する成果などを、これまた支障の無い範囲で評価結果やデータを示しながら勝手な管理人のコメントが付くという「製造現場」からのリアルタイムな情報発信です。加工から評価、測定までを実施できる製造現場を軸にして一人の研磨屋が何を感じ、何を思い、何を憂うのかをテキストに載せて気ままに公開していく、過去に前例のないスタイルで更新して参ります。今後このようなブログが出現する可能性は極めて低いと考えています。企業が作るWebサイトに具体的な加工について詳細がオープンにされることはありません。ましてや製造現場から情報が発信されることも皆無。暗く閉ざされた現場では作業者の思いや苦悩について報われぬ葛藤と共に混沌が渦巻いているはずなのに誰にも話せないもどかしさに満ちているように感じます。製造現場の作業員として混沌の現場にいる他社の作業員と同じ目線の高さに常に立ち続け、横方向の連鎖を得るため、「作業員は技術者であり、営業でもある」という一歩進んだ考えからこのブログを立ち上げることにしたものです。

研磨屋の門を叩いたのは今から16年前。実は研磨屋になりたかったわけではなく、当時は目当ての職業の求人案内が見つかるまでのアルバイトのつもりでした。1年ほどで辞めるつもりだったのに3年目あたりからなんだか研磨が楽しくなってきて方向転換。ニッチな加工技術を身に付けて幅広い材料を磨いてみたいと思うようになりました。その道は平坦ではなく顧客の要求と実際の仕上がりとのギャップにジレンマを感じながら知識不足を補うことに必死で、文献をかなり勉強した覚えがあります。当時は加工技術探求に時間を割くことが十分にできずに研磨面品質も「そこそこ」の仕上がりに留まり、それがとても悔しかったな。まあ、昔の話で恥ずかしい限りです。

加工屋として得意技術を持つことがこれからは重要だと痛感した経験から「人がモノをつくり、モノが人をつくる」を自身に言い聞かせて難しい材料における平滑性を探求することを自分へのテーマとして掲げ、ここ数年は加工機と評価装置に囲まれてラボに引きこもっているのです♪(でも最近はやっつとヒマかしらん?)



研磨屋の現場に立つ作業員が公の場において加工を語るの極めて異例であり、取り組みを公開するなんて有り得ないと聞きます。十数年の研磨屋稼業で蓄えられる技術や技能なんて数にすれば、たかが知れています。しかしながら本来の「ノウハウ」とか技能は文字や数値で表せないものですから使用している資材や工具を述べてもそれを誰かが真似るだけで良い結果が出ることは無いでしょう。手先で考えながら育つのが技術、技能ですからね。(つづく)

